

対象年度		令和 3年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート										
事務事業名		各種運動普及推進事業						予算事業名		運動普及推進事業費				
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	健康増進法					
				04	01	03	2401	経常経費	根拠法令					
総合計画体系		1ともに支えあい，安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)							事業の区分		主要事業			
		1-1健康で安心して暮らせる保健福祉の充実（健康・医療）									重点事業			
		①健康づくりの推進							担当課係等		健康増進課			
		2健康な身体づくりの支援									健康増進係			
事業期間		継続（平成 8年度～ 年度）												
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
市民が健康づくりのため日常的に運動にし，心身の健康維持・増進をめざす。							健康日本21(第二次)においても，市民の健康保持・増進及び生活習慣病予防のため，大きな柱「身体活動の増加」，「健康な食事」，「禁煙」の一つとして推進する。							
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】							【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】							
市民向けの運動教室を開催し，心身の健康づくりのための運動を普及啓発する。 ・リズムエクササイズ教室実施 ・ステップ運動教室実施 ・依頼による出前運動教室 ・その他健康運動教室実施							20歳以上の市民 【事業をとりまく環境の変化】 第2次健康日本21においても，市民の健康保持・増進及び生活習慣病予防のため，大きな柱として「身体活動の増加」，「健康な食事」，「禁煙」を推進している。							
【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】				【令和 5年度 事業内容】						
・リズムエクササイズ教室実施 ・ステップ運動教室実施 ・依頼による出前運動教室 ・その他健康運動教室実施				・リズムエクササイズ教室実施 ・ステップ運動教室実施 ・依頼による出前運動教室 ・その他健康運動教室実施				・リズムエクササイズ教室実施 ・ステップ運動教室実施 ・依頼による出前運動教室 ・その他健康運動教室実施						

■事業費

		R01年度	R02年度			
財 源 内 訳	国 庫 支 出 金	0	0			
	県 支 出 金	0	0			
	地 方 債	0	0			
	そ の 他	0	0			
	一 般 財 源	31	32			
歳 入 計（千 円）		31	32			
歳 出 内 訳	節（番号＋名称）	金額（千円）	金額（千円）			
	10 需用費	31	32			
歳 出 計（千 円）（A）		31	32			
伸 び 率（％）			3.22			
備 考	総合計画49ページ 予算書103ページ					

令和元年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R01年度	R02年度	R03年度
活動 指標	各種教室等の延べ実施回数	回	目標	120.00	120.00	120.00
	地域で運動教室（リズムエクササイズ教室・ステップ運動教室・出前運動教室・その他健康運動教室）の延べ実施回数		実績	106.00	0.00	0.00
	運動普及推進員協力者延人数	人	目標	400.00	400.00	400.00
	地域で運動教室（リズムエクササイズ教室・ステップ運動教室・出前運動教室・その他健康運動教室）の延べ協力人数		実績	288.00	0.00	0.00
成果 指標	ステップ運動教室延べ参加者数	人	目標	90.00	90.00	90.00
	手軽にできる有酸素運動である、ステップ運動を多くの市民に普及をする年間4回開催する。その延べ参加者数		実績	29.00	0.00	0.00
	リズムエクササイズ教室参加者数	人	目標	850.00	300.00	550.00
	教室の中でも、予約不要で気軽に参加できる、リズムエクササイズ教室を21回実施した。その延べ参加者数		実績	478.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	健康を維持・増進する上で運動を推進することは重要であり、必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	健康日本21にも地域における運動の推進とあり、市民の健康づくりを市民団体が支援することは理想的である。
	手段の妥当性	A 妥当である	現在のやり方が一般的であり、妥当である
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらも言えない	推進員のリーダーシップ性、高齢化及び休会などから活動回数にはばらつきがある。
公平性	受益者の偏り	B どちらも言えない	教室やイベントは全市民を対象に周知するが、参加者の多くが経験者であるが、リピーターの参加者も多く、全ての市民に伝達することは困難である。
有効性	成果向上の余地	B どちらも言えない	参加者数は横ばいであるが、開催する運動教室は市民に定着しつつある。
進捗度	事業の進捗	B どちらも言えない	昨年度に比べ、推進員の運動普及人数は減少したが、新規で取り組む事業もあり、教室の内容は広がっている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
開催する運動教室は好評であり、市民に定着しつつある。しかし、30～50歳代の若い世代（運動習慣を身に付けてほしい世代）の参加者が少ないことから、対象者を限定するなど、新しい教室の企画も必要と考える。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
市民の健康づくりを支援する運動普及活動は求められており、今後も継続して市民のニーズにあった教室を開催していく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 健康の保持・増進のため運動は重要であるため、今後も市民に適した運動普及を継続する。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	